

令和5年度第1回北海道総合教育会議

「教師」という仕事が
選ばれる魅力ある職業として輝いていくために
～教員の確保に向けた道教委の取組～



HOKKAIDO
BOARD OF
EDUCATION

令和5年10月26日（木）
北海道教育委員会

「教師」という仕事が 選ばれる魅力ある職業として輝いていくために

【 内 容 】

1 本道の教員不足の現状

2 教員確保に向けた3つの課題

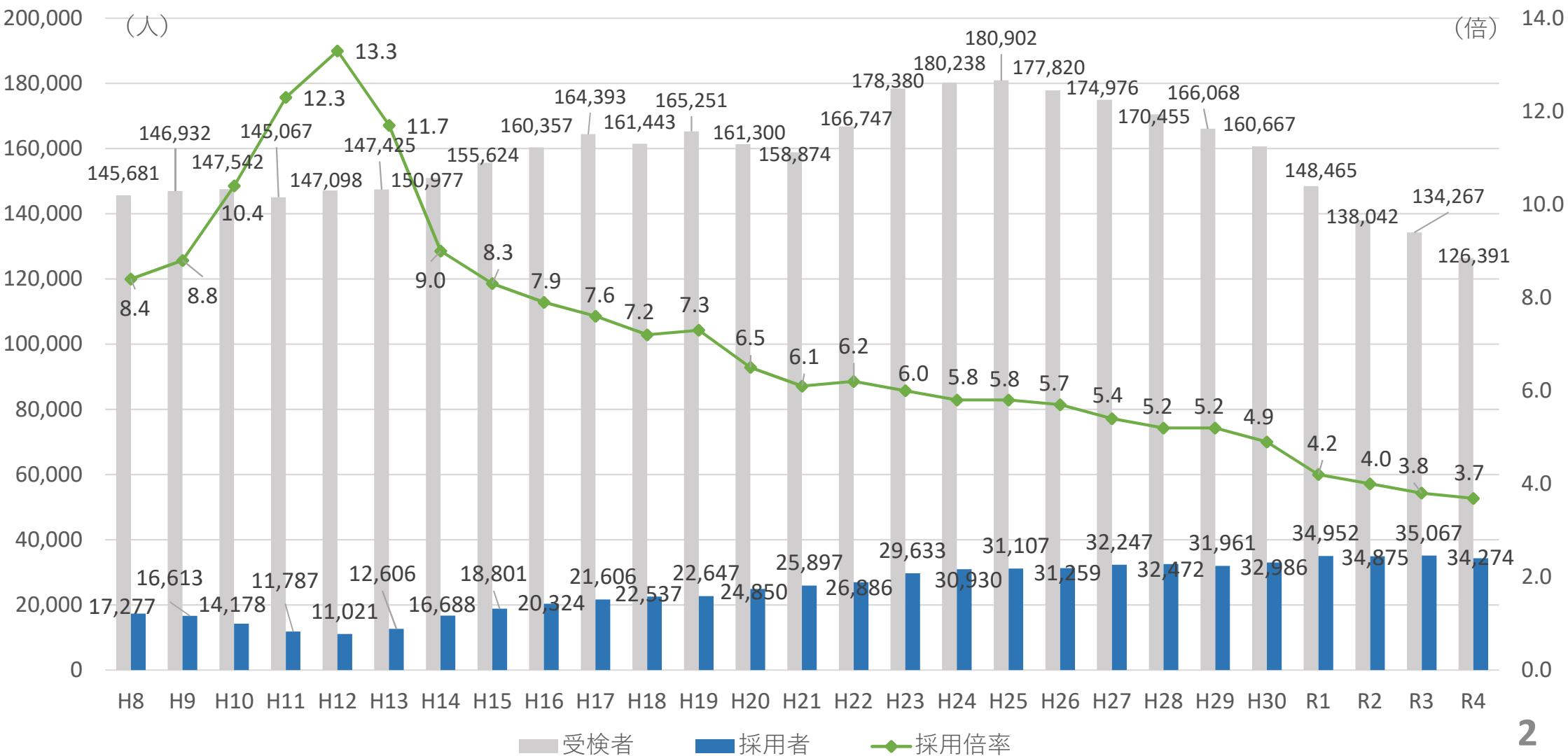
- ・ より多くの若い方々に教員を目指してもらおう
- ・ 教員を目指す方々に北海道での教職を選んでもらう
- ・ 働きやすく、やりがいを感じる環境を整える

3 課題解決に向けた道教委の取組

1 本道の教員不足の現状

公立学校教員採用選考検査の実施状況【全国】

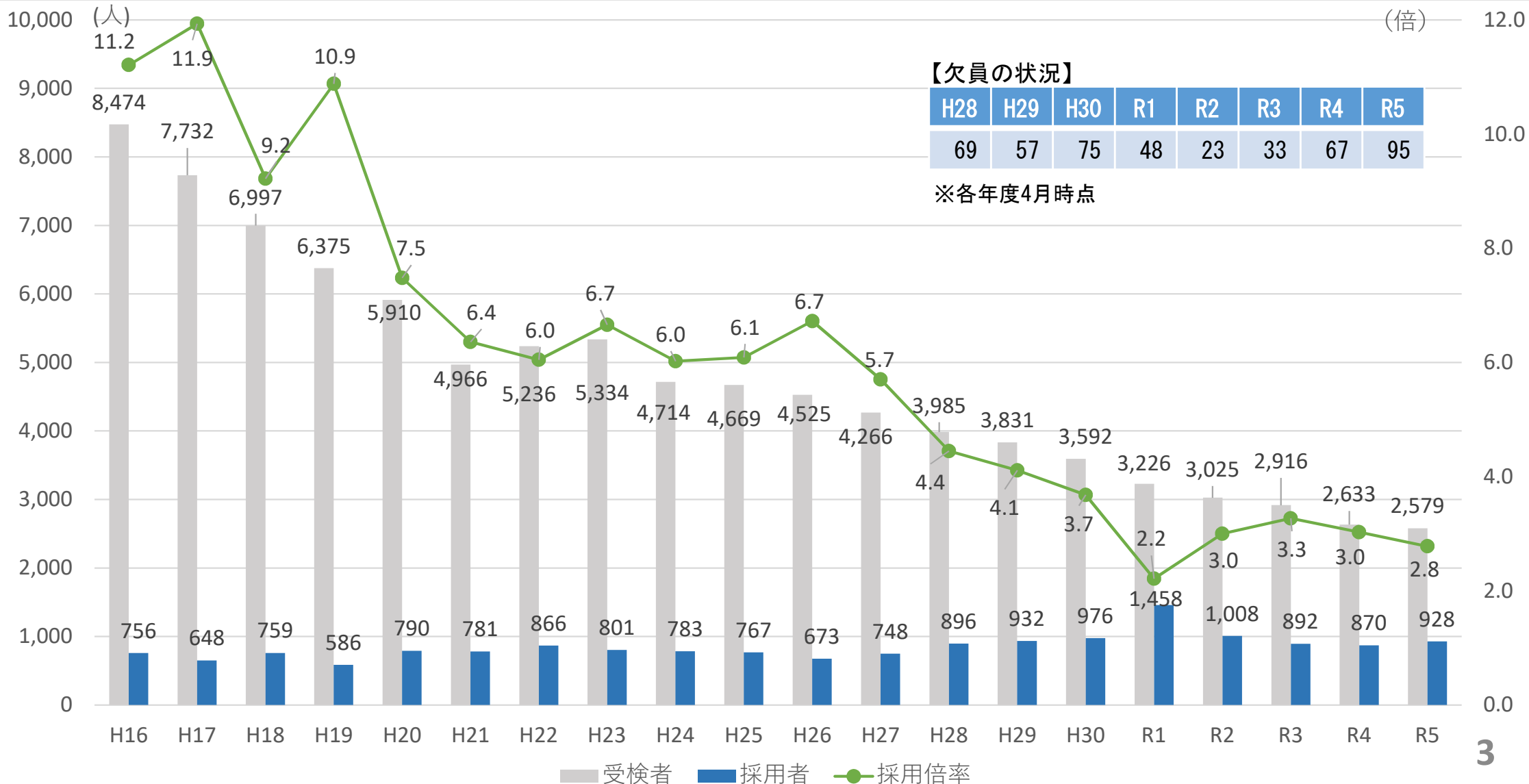
- ◇受検者は概ね増加傾向が続いてきたが、大学新卒者の就職市場の好転などもあり、平成25年度をピークに減少
- ◇採用者は、平成12年度以降、退職者の増に伴う大量採用の傾向が持続
- ◇平成12年度以降の採用者の増に加え、平成26年度以降は受検者の減も同時に進行し、採用倍率は平成12年度の13.3倍をピークに、令和4年度は3.7倍にまで低下



1 本道の教員不足の現状

公立学校教員採用選考検査の実施状況【北海道】

- ◇受検者は、年度毎に多少の増減はあるものの、一貫して減少基調
- ◇採用者は、大幅な増減はないが、平成26年度以降は緩やかな増加傾向
- ◇受検者の減により採用倍率は減少が続き、平成17年度の11.9倍をピークに令和5年度は2.8倍にまで低下



【欠員の状況】

H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
69	57	75	48	23	33	67	95

※各年度4月時点

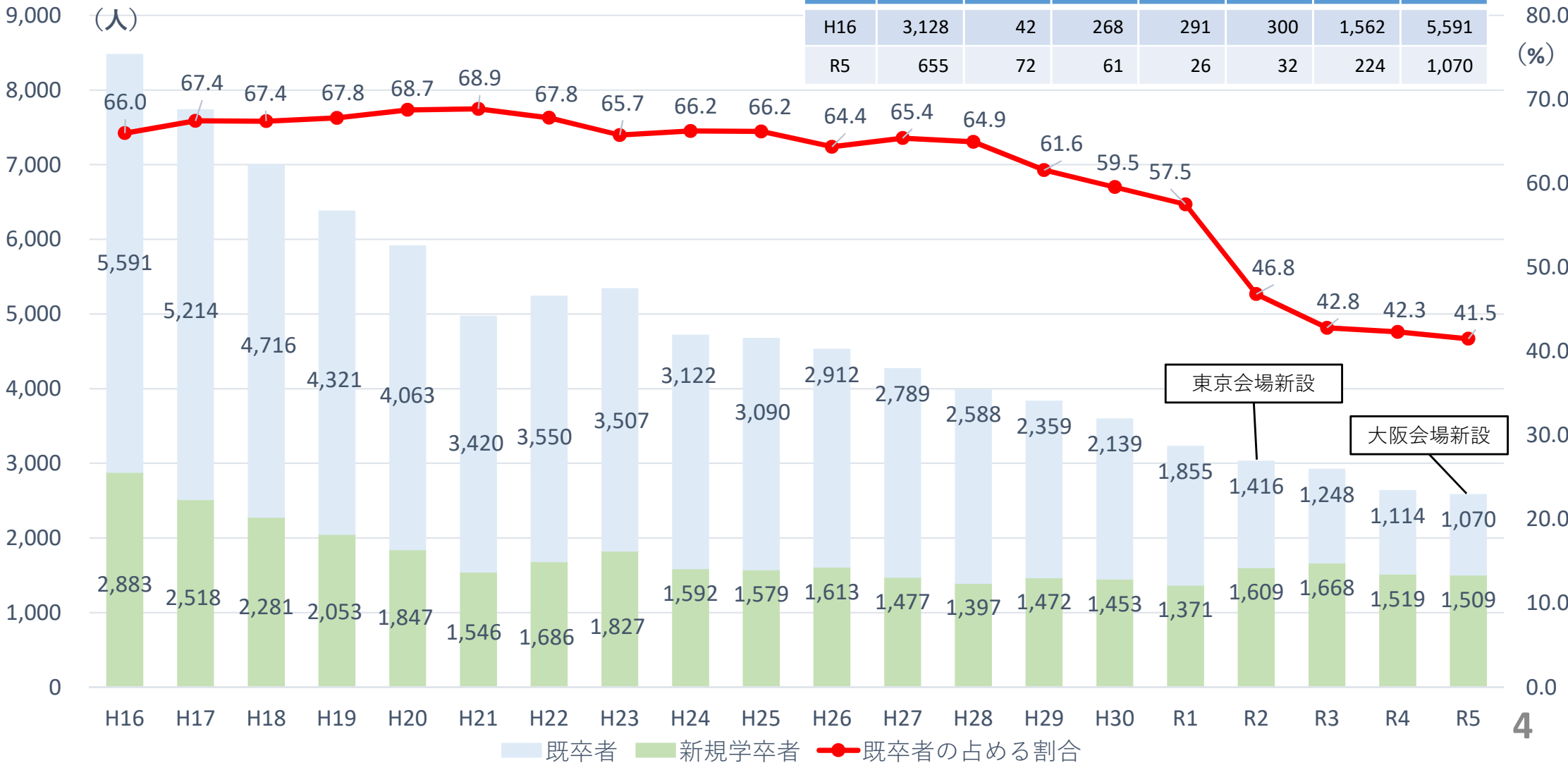
1 本道の教員不足の現状

受検者に占める既卒者の割合【北海道】

- ◇既卒者・新規学卒者ともに減っているが、既卒者の減り幅の方が大きく、現在、新規学卒者が既卒者を上回る
- ◇受検者は平成21年度にかけ大きく減少、その後増加に転じたものの、平成23年度をピークに再び減少
- ◇令和2年度に第1次検査会場として東京会場を設置したことにより、新規学卒者の受検者が回復

※既卒者の内訳

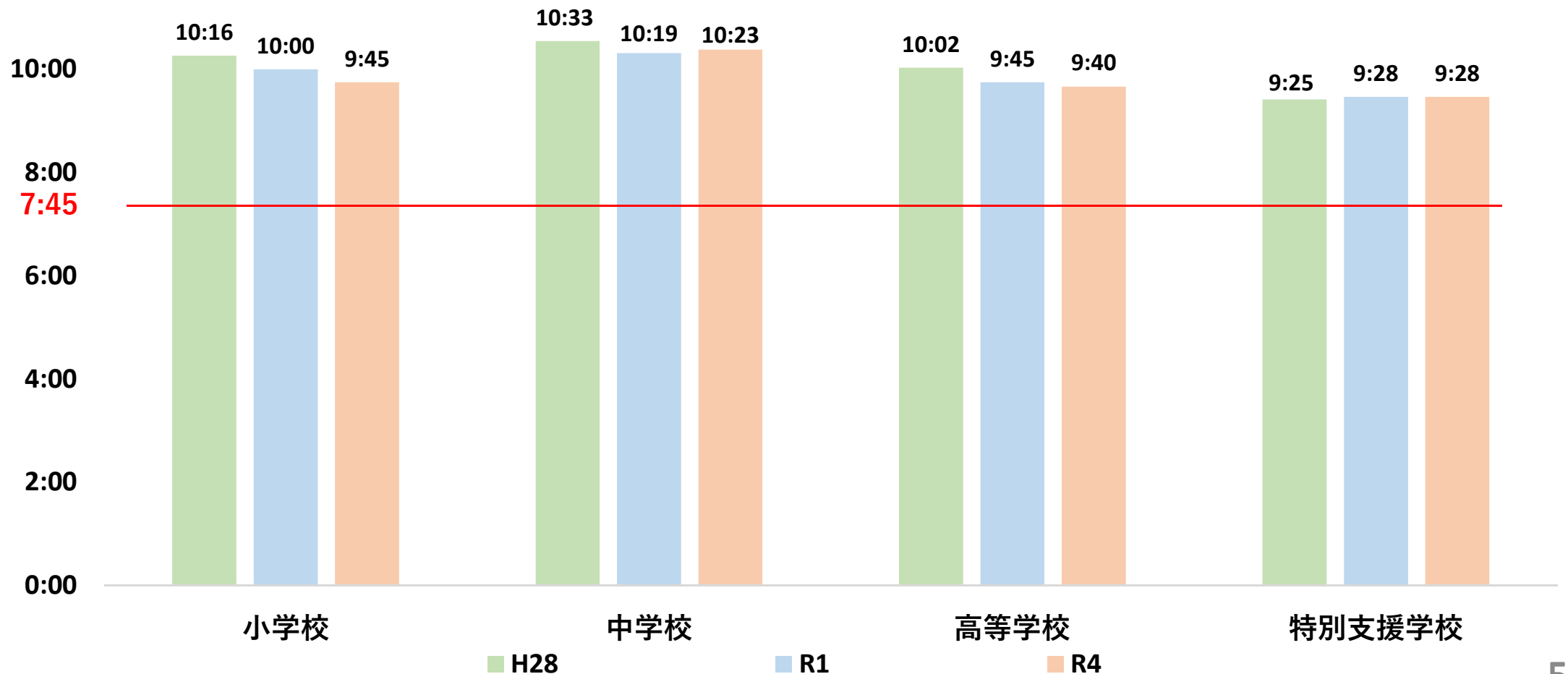
	期限付	正規教員	私学教員	公務員	民間	その他	計
H16	3,128	42	268	291	300	1,562	5,591
R5	655	72	61	26	32	224	1,070



1 本道の教員不足の現状

1日当たりの在校等時間（主幹教諭・教諭） ※勤務日における教員1人当たりの平均

- ◇平成30年度以降、「北海道アクション・プラン」により、学校における働き方改革の取組を推進（在校等時間の計測と公表等、部活動休養日等の完全実施、ICTを積極的に活用した業務 等）
- ◇働き方改革の取り組み前であるH28年度と比較すると、小学校、中学校、高等学校で改善（小学校：約5%減 中学校：約2%減 高等学校：約4%減）
- ◇年々、改善の傾向が見られる一方、依然として、長時間勤務の状況が続いている



1 本道の教員不足の現状

教員勤務実態調査において「忙しさを感じる」と回答した主幹教諭・教諭の割合

- ◇成績処理、事務処理（調査への回答）、事務処理（その他）、保護者対応など、直接、児童生徒に接しない業務は高い割合となっている
- ◇部活動・クラブ活動は、中学校及び高等学校で50%を超過
- ◇授業や教材研究・研修など児童生徒の学びの充実に直接関わる業務は比較的低い割合となっている

業務内容	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
朝の指導 *1	25.5%	22.9%	34.5%	14.4%
集団への生徒指導 *2	31.1%	28.5%	38.6%	20.1%
授業（主担当）	33.6%	27.5%	35.4%	36.0%
学校行事（準備を含む）	52.8%	50.9%	50.7%	54.4%
部活動・クラブ活動	42.6%	61.7%	57.2%	14.2%
教材研究・授業準備・指導計画	44.7%	44.7%	43.5%	46.5%
成績処理	59.9%	60.0%	62.6%	47.4%
事務処理（調査への回答）	76.2%	76.7%	75.2%	69.9%
事務処理（その他） *3	66.9%	65.6%	64.7%	60.9%
会計 *4	45.1%	49.1%	47.8%	32.3%
研修（校内）	48.3%	41.3%	46.5%	53.9%
保護者対応	53.3%	58.5%	56.0%	40.8%
P T A等対応	40.0%	53.1%	40.4%	18.3%
地域対応	30.1%	38.3%	33.7%	14.8%

- *1 登校指導、健康観察など
- *2 給食指導、清掃指導など
- *3 会議資料等の作成など
- *4 給食費・教材費などの集金



は「忙しさを感じる」と回答した割合が50%を超えた業務

1 本道の教員不足の現状

北海道教育大学に在籍する学生に対するアンケート（R3.10）

- 様々な働き方や職業が増え、選択の自由がある中で、「**堅苦しい**」「**残業**」などの固定観念がある中で、**わざわざ教員を志望する若者が少ない**と考える。
- 「先生」という職業が、以前より高尚なものではなくなっている。教員を軽視（蔑視）する保護者もいたり世の中の教師に対するイメージが悪くなるようなニュースがあったりして、**教師の立場がどんどん弱くなっている**印象がある。
- 教師の働き方改革が進んでいる**ことは教育大生は知っているかも知れないが、教師になりたいと思っている人はその**現実を知らず、教師はブラックな仕事だ**と思っている人が大勢いると思うので、教師を目指している人以外にも働き方改革について知ってもらったらよい。
- 教員になった際の待遇やサポートを充実し、「**教員として働くと、自分の人生を豊かにしながら子どもたちの人生を豊かにする支援ができる**」という魅力を多くの人が知ることができればと思う。
- どの職業も大変な中、**教職の大変さが目立っているという現状**が教員の志望者数の減少につながっていると考える。

1 本道の教員不足の現状

子どもたちが憧れる「先生」という仕事

「先生」が、子どもたちにとって、夢を追い続けられる職業として輝いていくために、何ができるか

【参考】小学6年生の「将来就きたい職業」トップ10

	男女総合		男の子		女の子
1	スポーツ選手 	1	スポーツ選手	1	漫画家・イラストレーター 
2	教員 	2	研究者	2	教員 
3	漫画家・イラストレーター	3	ゲームクリエイター	3	医師
4	医師	4	IT関係	4	動物園・遊園地
5	研究者	5	建築家	5	看護師
6	動物園・遊園地	6	エンジニア	5	保育士
6	建築家	7	医師 	7	パティシエ・パン屋
8	ゲームクリエイター	8	教員 	8	美容師
9	パティシエ・パン屋	8	会社員	8	デザイナー
10	IT関係・看護師・会社員	10	公務員・宇宙関係	8	作家・絵本作家

出典：株式会社クラレHPより（2023年7月公表）

2 教員確保に向けた3つの課題

「教職」を「選ばれる、魅力ある」職業に

〔課題1〕

より多くの若い
方々に教員を目指
してもらおう



道・民間・大学・地域とのコラボレーション

魅力啓発・人材育成・環境整備の好循環

〔課題2〕

教員を目指す方々
に北海道での教職を
選んでもらう



〔課題3〕

働きやすく、
やりがいを感じる
環境を整える



3 課題解決に向けた道教委の取組

【課題1】 より多くの若い方々に教員を目指してもらう

教職の魅力啓発

若者が早期から、教員や子どもたちとの交流を通して、教職のやりがいや学校現場の実践に直接ふれる機会の充実

	高校生	大学生
目的	教職志望の 喚起	教職志望の 維持・高揚
学習会型	教員養成セミナー	(企画中) 教師塾
実習型	小・中学校 インターンシップ	草の根教育実習
	高等学校 みらいの教員育成プログラム	(企画中) 学生ボランティア 学校派遣
出前講座型	大学オープンキャンパス での道教委出前講座	大学講義での 道教委出前講座

【R 4 取組例】 高校生対象「教員養成セミナー」

目的

高校生が**教員や大学生との交流**を通して、**教職という進路選択**に関心をもつ

実施方法

- ・北海道教育大学との共催
- ・Zoomによるオンライン実施（高校生が自校や自宅の端末で参加）

内容



【事前】 動画視聴

「先生の日」

- ・教員のやりがいや魅力に関心をもつ

【前期 10月】 座談会

- ・現職の先生のお話
- ・現役大学生のお話
- ・高校生と先生・大学生の
フリートーク

【後期 12・1月】 模擬指導体験

「先生になりきって説明してみよう」

- ・高校生が算数の**模擬指導**を体験

高校生 「先生の仕事のやりがいは、どんなところですか」

先生 「卒業生を送り出すときの感動は、何にも代えがたいものですよ」

高校生 「大学で子どもと触れ合う機会がありますか」

大学生 「教育実習以外にもサークルやボランティアなど、たくさん触れ合えますよ」

先生、どうして、三角形の面積は「底辺×高さ÷2」なの？



私が先生だったら、どうやって伝えようかな？質問してくれた子どもの気持ちに答えてあげたいな。

R 4 実績

高校生数 約**1,100名**（R 3比 **+560**） 高校数 約**70校**（R 3比 **+20**）

※令和5年度から、参加対象を札幌市立高校及び**道内私立高校**の生徒まで拡充

【R4取組例】高校生対象「小・中学校インターンシップ」

目的

高校生が小・中学校での職場体験を通して、子どもの成長に関わる楽しさを実感する

実施方法

道教委が、希望する高校生と協力校をマッチング

【高校】事前学習

・短期の学習支援で学校を訪問し、学校の雰囲気や子どもへの接し方等を理解

小・中学校等インターンシップ

子どもとの交流

授業で

- ・授業参観
- ・学習の指導補助
- ・体育、音楽等での模範演示



学校生活全体で

- ・給食での交流
- ・清掃指導の補助
- ・部活動、児童会活動の参加



教員との交流

- ・若手教員との座談会
- ・教員同士のミーティングへの参加
- ・学級担当事務の体験
- ・家庭学習等の添削など



【高校】事後学習

・校内外での報告会の実施 ・継続した学習ボランティアへの参加

令和4年度 実績

高校： 44校（R3比 **+8**） 高校生： 652名（R3比 **+265**）

※令和5年度から、参加対象を道内私立高校の生徒まで拡充

【R5取組例】高校生対象「みらいの教員育成プログラム」

目的

高等学校段階から教員の仕事を理解し、教員になるための素養を高めるとともに意欲の高揚を図る

実施方法

- ・北海道教育大学との共催
- ・大学教員を講師とした講義や小・中学校での学校実習の実施

内容

「教員基礎」(2年生対象科目)

35単位時間実施
(高校の単位として認定)

実践

学校実習(小)

- ・授業観察
- ・児童と遊ぶ活動
- ・道徳の授業実践



理論

講義

- ・教科教育学
- ・教育心理学
- ・教育学



未来予想

ゼミ・卒論発表会

- ・大学生と一緒にゼミ体験
- ・卒論への質問



理論と実践の往還

「教員基礎探究」(3年生対象科目)

35単位時間実施
(高校の単位として認定)

実践

学校実習(中)

- ・授業観察
- ・生徒と交流
- ・道徳の授業実践



理論

講義

- ・いじめ、不登校問題
- ・特別支援教育



探究

探究活動

- ・探究テーマの設定
- ・恩師にインタビュー
- ・探究結果のプレゼン



※道央圏の他、R5から道北圏、道東圏にも段階的に拡大(内容はそれぞれの地域の特徴を反映)

R5実績

高校生：103名(「教員基礎」：道央41名・道北20名・道東15名、「教員基礎探究」：道央27名)

【R 4 取組例】 大学生対象「草の根教育実習」

目的

大学生が特色ある小規模校実習を通して、教職の魅力ややりがいを見出す

実施方法

道教委が、希望する大学生と協力校をマッチング

（8月～12月の3～5日間
大学1～4年生、大学院生）

【事前】 動画視聴

草の根教育実習ドキュメンタリー

- ・ 実習の概要
- ・ 実習の一日
- ・ 参加者インタビュー



草の根教育実習

授業体験

児童生徒との交流

- ・ TTや教科指導の体験
- ・ 複式授業の参観
- ・ 放課後活動の補助

先生たちとの対話等

- ・ 校内研修等の参加
- ・ 学級担当事務の体験
- ・ 若手教員との座談会

地域との連携・交流

- ・ 地域行事への参加
- ・ 地域の施設見学
- ・ 教育委員会職員との交流

R 4 実績

大学生数 延べ**154名**（R 3 比 **+33**） 大学数 **14大学**（R 3 比 **+ 3**）

3 課題解決に向けた道教委の取組

【課題1】 より多くの若い方々に教員を目指してもらう

【成果】

◎全ての取組において、**年々、参加者が増加**、実施規模を拡充中

例：高校生「養成セミナー」 R3:**540**名→R4:**1100**名→R5:**1300**名（予定）

大学生「草の根実習」 R3:**121**名→R4: **154**名→R5:**180**名（予定）

◎各取組の参加者アンケートにおいて、**満足度90%以上**

- 感想例
- ・現職の先生の話聞いて、私も、そんなふうになってみたいと思いました。
 - ・小規模校の実習を体験して、北海道の先生になってみたいと思いました。

教職の魅力をより多くの若者に伝えていく

【論点】

教職に魅力を感じ、教員を志す若い方々を増やすために、どのような取組が求められるか

3 課題解決に向けた道教委の取組

【課題2】 教員を目指す方々に北海道での教職を選んでもらう 北海道の教員のなり手を幅広く確保する仕組みの構築

教員を目指す者が、北海道の教員になってもらうための教員選考のあり方の見直し

受検しやすい環境整備、人材発掘に向けた情報発信

選考検査環境の改善

- ・ 道外検査会場の設置（東京、大阪）
- ・ 第2次検査会場の受検者選択制

選考検査の早期化、複数回実施

- ・ 1次：6月、2次：8月
- ・ 12月に大学3・4年生、社会人を対象にした特別選考 ※R5新規

様々な特別選考の導入

- ・ 教職大学院修了者特別選考（R5）
- ・ 退職教員特別選考（R4）
- ・ 登録辞退者特別選考（R2）
- ・ 期限付教員特別選考（H30）

潜在的な人材の発掘

- ・ 様々な媒体での募集（民間情報紙、WEB等）
- ・ ペーパーティーチャー説明会
- ・ 大学や校長会等との連携

3 課題解決に向けた道教委の取組

【参考】他都府県における特徴的な取組

教員免許状を所有する 社会人に向けた取組

社会人経験者特別選考

(複数県で実施)

- ・民間企業、官公庁等で正規職員として一定期間の勤務経験を有する者を対象

(例)

- ・直近5年の間に3年以上の経験
- ・直近10年の間に5年以上の経験

- ・検査の優遇措置

(例)

- ・1次検査の教養検査を免除
- ・1次検査の筆記検査を小論文へ



教員免許状を所有しない 社会人に向けた取組

セカンドキャリア特別選考

- ・民間企業等における正規職員としての勤務経験5年以上の者を対象
- ・試験に合格した者は、合格後2年以内に教員免許を取得

教職チャレンジサポート特別選考

- ・大学又は短大を卒業した者を対象
- ・試験に合格した者は、合格後2年以内に教員免許を取得
- ・免許取得のための学費補助あり



大学・民間と連携した取組

大学推薦特別選考

- ・大学に推薦枠を割り当て、志願する県の教員となることを第1希望とし、県教委が求める資質と能力を有する学生を大学が推薦
- ・1次検査を免除

民間人材の活用

- ・人材サービス企業と国立高等専門学校との連携協定に基づき、ICTの分野で民間企業のエンジニアを「副業先生」として活用

3 課題解決に向けた道教委の取組

【課題2】 教員を目指す方々に北海道での教職を選んでもらう

【成果と課題】

- ◎ 道外検査会場の設置により、**道外出身の受検者数は増加したものの、辞退者も多い**
 - ・ 東京会場 R 5 受検者499名 登録者206名 うち辞退者数**116**名
 - ・ 大阪会場 R 5 受検者304名 登録者150名 うち辞退者数 **95**名
- ◎ **既卒受検者の減り幅が特に大きく、教員のなり手不足の要因**
 - ・ H16 既卒者**5,594**名 新規学卒者2,880名
 - ・ R 5 既卒者**1,075**名 新規学卒者1,504名

現行の取組だけでは十分な教員が確保できておらず、
新たな教員のなり手の確保が必要

【論点】

他県で行っているような、新たな教員のなり手の確保のためには、どのような取組が考えられるか

3 課題解決に向けた道教委の取組

【課題3】働きやすく、やりがいを感じる環境を整える

学校における働き方改革北海道アクション・プランの取組

Action1 本来担うべき業務に専念できる環境の整備

○スクール・サポート・スタッフや部活動指導員などの支援スタッフの配置促進

Action 2 部活動指導に関わる負担の軽減

○部活動休養日等の完全実施、部活動の地域移行

Action 3 勤務時間を意識した働き方の推進と学校運営体制の充実

○在校等時間の客観的な計測・記録と公表

Action 4 教育委員会による学校サポート体制の充実

○スクールロイヤーの配置、教頭への支援



教員が誇りとやりがいをもって
働くことができる職場環境

教職の
魅力発信

・ 教員の「新たな学びの姿」の実現
(探求学習、地学協働、ICT活用などへの対応)

・ 子どもたちと向き合う
時間や機会の確保



【国の動向】

骨太方針2023 R5.6.16

- 教職の魅力向上等を通じ、志ある優れた教師の発掘・確保に全力で取り組む。
- 教師が安心して本務に集中し、志気高く誇りを持って子どもと向き合うことができるよう、**働き方改革の更なる加速化**、処遇改善、指導・**運営体制の充実**、育成支援を一体的に進める。
- コミュニティ・スクール等も活用した**社会全体の理解の醸成**を推進

中央教育審議会 (緊急提言) R5.8.28

【現状】

- 教師の時間外在校等時間は一定程度改善したが、**依然として、長時間勤務の教師が多い状況**

【対応】

- 国、都道府県、市町村、各学校などが自分事としてその権限と責任に基づき主体的に取り組む
- 保護者や地域住民、企業など社会全体が一丸となって**課題に対応

【取組の具体例】

- 学校・教師が担う業務の適正化の一層の推進
 - ・各学校における授業時数や学校行事の在り方の見直し など
- 学校における働き方改革の実効性の向上
 - ・**地域、保護者、首長部局等との連携協働** など
- 持続可能な勤務環境整備等の支援の充実
 - ・**スクール・サポート・スタッフなどの支援スタッフの配置充実** など

3 課題解決に向けた道教委の取組

【課題3】 働きやすく、やりがいを感じる環境を整える

【成果】

- ◎ 北海道アクション・プランの取組は浸透
- ◎ それに伴い、教員の長時間勤務の状況は一定程度改善

【課題】

◎ 更なる多忙化の解消

これまでの取組が、必ずしも教員一人一人の働き方の変容に結びついておらず、依然として長時間勤務の教員が多い。

◎ 学校・教員が担う業務の適正化の徹底

学校以外が担うべき業務や教員が担う必要のない業務に係る役割分担、負担軽減が可能な業務の見直し・簡素化が十分に進んでいない。

保護者、地域住民、企業など、
社会全体で学校(教員)を支える必要

【論点】 教員が教員でなければできない業務に専念し、自身の「新たな学びの姿」を実現できるよう、地域や企業との連携や、地域人材の活用をどのように進めるか